



学校通信第17号

西白山台小だより

八戸市立西白山台小学校 (☎ 70-2489)

参観日で感じたこと～共育の場として～

校長 原 寿

6月29日（金）、500名を超える保護者の皆様に来校いただき参観日を行うことができました。参観日に際して徒歩での来校にご協力いただきありがとうございます。これも、西白山台小学校のよき伝統にしていきたいと思います。

当日は気温32度の猛暑の中での授業参観となりましたが、どの学級も真剣に学ぶ子どもの姿、そしてそれを見守る保護者の方々の姿がありました。保護者の方々がしっかり授業を



を観てくださっていることで、子どもも授業に集中することができます。授業者もより子どものために工夫しようと頑張ることができます。先生も、保護者も、一緒に子どもたちを育てている雰囲気がありました。

私もすべての教室を回りましたが、すれ違う保護者の方のほとんどがあいさつや会釈をしてくださいました。日ごろの子ども様子を教えてくださいました。多くの方々とつながっていることを実感し、「共育」の姿を見ることができた参観日でした。本当にありがとうございました。

◇◇◇PTA環境美化奉仕作業◇◇◇



○6月30日（土）10時からPTAの環境奉仕作業として、校地の草刈りをしていただきました。参加した50名以上の保護者・子ども・教員の連係プレーにより、1時間ほどの作業で北側と南側の法面が見違えるほどきれいになりました。暑い中での作業に心から感謝を申し上げます。



【最高の思い出～修学旅行～】

6月10日（日）～12日（火）の3日間、6年生が洞爺湖・函館方面へ修学旅行に行ってきました。楽しみにしていたルスツの遊園地や洞爺湖の花火、自主見学、買い物…。すべての見学場所で西白山台っ子の元気なあいさつが聞かれました。雨のため夜景見学がバスの車窓からの元町見学へと変更になりましたが、64名それぞれの心に残る素晴らしい思い出ができたことと思います。友達のよさを見出し、より深い友情を育てるきっかけにもなった旅行となりました。



＜7月の行事予定＞

2 (月)	定期配信	社会科見学 (4年)	12 (木)	5時間授業	交通安全教室
3 (火)	集金日		13 (金)	社会科見学 (4年)	
4 (水)	音楽朝会	PTA運営委員会	16 (月)	海の日5時間授業	
5 (木)	委員会		17 (火)	5時間授業	
7 (金)	大清掃	水泳教室 (6年)	18 (水)	音楽朝会	
10 (火)	朝のよみきかせ		19 (木)	委員会	
11 (水)	全校朝会	水泳教室 (1年)	20 (金)	一学期終業式	3時間授業



七夕の日に

「ありがとう」という言葉の重みとともに、七夕が近づくと思い出のお話があります。鈴木健二さんの著書「続 気づばりのすすめ」に収められている『坊や ありがとう』というお話です。その前半で、知的障害のお兄さんのいる小学1年生（弟）が小学校入学までの出来事が綴られ、続いて次のようなエピソードが語られます。（少し長いですが紹介させていただきます）

弟が小学校に入りました。入学式の日、教室で席順がきまったら、この弟のとなりに、左腕が小児麻痺で不自由な子が座りました。最初の体育の時間です。先生は、この不自由な子がどうやって体操服に着替えるか、黙ってほっておきました。それが将来、必ずこの子のためになると思ったからです。案の上、この子は生まれて初めてお母さんの手を借りずに右手1本でシャツを着替えました。しかしながら、着替えを終わったときには、体育の時間はすでに30分も過ぎていました。次の時間、先生はもう一度ほっておきました。そうしたら手の不自由な子がきちんと待っているのです。どうしたのかと思って、先生は次の体育の前の休み時間、教室の陰からそっと見ていました。すると前の時間が終わると、この弟が、まず自分の洋服をばあっと着替え、それからその隣のお友だちを一生懸命手伝うのです。不自由な手に体操服を通すなんていうのは、お母さんでも難しいのです。それを、1年生のこの弟が一生懸命通して2人で駆け出して運動場に出てきました。そのとき、先生はこの弟をほめてやろうと思いました。けれども、ほめたら先生にほめられるからやるんだということになります。そうしたら何にもならないのです。そこで先生は、ほめてやりたいけれども、心を鬼にして黙っていました。

七夕の日です。参観日が開かれ、お母さんたちがみんな教室に集まりました。その授業で、先生は七夕の願いごとを短冊に書かせて、それを笹に下げて、お母さんたちが集まったところで1枚、1枚読んでいきました。1年生ですから、お小遣いちょうだいとか、あのおもちゃ買ってちょうだい…そういうことがずっと書いてあります。その中の1枚に「神様、ぼくのとなりの子の腕を早くなおしてください」と書いてありました。この弟が書いたのです。この手の不自由な子のお母さんは、子どもがどんなに不自由しているだろう、みんなに迷惑をかけていることだろう、本当に申し訳ないことだ…と教室に入れないで、廊下からそっと中の参観授業の様子を見ていました。しかし、先生は、「神様、ぼくのとなりの子の腕を早くなおしてください」という、この一生懸命なお祈りを見たとき、もう我慢できなくなって、体育の時間のことをお母さん方に話しました。そのとき、この手の不自由な子のお母さんは廊下から飛び込んで来て、教室の床にべったり座って、弟の首にしがみついて、どう言ったでしょか。「坊や、ありがとう、ありがとう、ありがとう…」と絶叫したそうです。その声がいつまでも学校中に響いたといいます。

小さい頃から兄を思い、友だちを助け、みんなの前でシャツを着替えさせるという勇氣をもったこの子は、これからなんとすばらしい人生をおくっていくことかと思えます。この子の資質を育てた親と先生に、「本当の教育」とは何かを考えさせられます。